

学校の授業で心肺蘇生とAEDの講習を

日本赤十字社では、児童・生徒に対し、限られた授業時間の中で、より効果的な心肺蘇生教育を行うことができる、「児童・生徒のための救命手当短時間プログラム」による講習会を行っています。

5月2日(木)に青少年赤十字加盟校である鴻巣市立赤見台第二小学校の5年生、6年生の生徒103名を対象に心肺蘇生とAEDの講習を実施しました。

参加した生徒からは、初めて体験する心肺蘇生法に興味津々で取り組み、講習会終了後には「倒れている人を発見した時は、助けたい」という声が多く聞かれました。

今回のプログラムを企画した指導者からは、「生徒達にとって貴重な経験になった。このプログラムを通じ、生徒たちが命の大切さを理解してくれると良い」と感想を述べていました。

埼玉県支部では、学校、地域、団体(企業等)に指導員を派遣し、各種講習会を行っています。

詳しくは、日本赤十字社埼玉県支部のホームページ又は講習係までお問い合わせください。



救命手当の
重要性を話す指導員



訓練人形相手に
心肺蘇生を体験



熱心に講習を受ける生徒たち

千葉県旭市赤十字奉仕団との交流

平成25年6月11日(火)、埼玉県内の奉仕団委員長が、東日本大震災で、多くの犠牲者をだした千葉県旭市で活動している地域奉仕団と交流を行い、被災地をバスの車窓から視察しました。

被災地での交流は、昨年6月に訪問した福島県西白河郡矢吹町の地域奉仕団との交流に続き、今回が2回目となるものです。

この交流は、埼玉県内の奉仕団員の会議において、「今、被災地が必要としている支援はどのようなものがあるのか?また、被災地において、実際に奉仕団がどのような奉仕活動を行ったのか?などを同じ奉仕団員から直接伺うことによって、自分たちにもできる被災地での支援を見つけ、将来、発生する可能性のある災害時に、奉仕団としてどのように行動したら良いのか再確認をする必要がある。」との意見から実現したものです。

旭市の奉仕団員からは、被災直後の避難所において、被災者へのおむすび作りを連日行ったこと。電話も通じずに、団員同士の連絡に苦労したことなど、多くのお話を伺いました。

埼玉県から参加した奉仕団員からは、「改めて災害時における奉仕団の役割の重要性を感じた。千葉県でこの様な大きな被害があったとは知らなかったが、これを機会にお隣の県として交流を続けて行きたい。私たち埼玉県の奉仕団でも、緊急時の連絡方法について改めて確認したい。」などの感想が聞かれ、多くの発見や課題を見つけることができ、大変有意義な交流となりました。

被災直後の状況を伺う参加者

